

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 9 月 5 日 (2013.9.5)

【公表番号】特表 2013-505208 (P2013-505208A)
 【公表日】平成 25 年 2 月 14 日 (2013.2.14)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-008
 【出願番号】特願 2012-529175 (P2012-529175)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 8/22 (2006.01)

A 6 1 K 8/41 (2006.01)

A 6 1 Q 5/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/22

A 6 1 K 8/41

A 6 1 Q 5/10

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 7 月 22 日 (2013.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 9】

本発明によれば、第四級アンモニウム化合物、エステルクォートおよびアミドアミン型のカチオン性界面活性剤も好ましい。好ましい第四級アンモニウム化合物は、アンモニウムハライド、例えば、アルキルトリメチルアンモニウムクロリド、ジアルキルジメチルアンモニウムクロリドおよびトリアルキルメチルアンモニウムクロリド、ならびに INCI 名 Quaternium-27 および Quaternium-83 として既知のイミダゾリウム化合物である。四級化タンパク質加水分解物も、本発明に使用できるカチオン性界面活性剤である。アルキルアミドアミンは、通常、天然脂肪酸または合成脂肪酸および脂肪酸断片を、ジアルキルアミノアミンでアミド化することにより製造される（例えば、Tegoamid（登録商標）S 18（ステアラミドプロピルジメチルアミン））。好ましいエステルクォートは、脂肪酸とトリエタノールアミンとの四級化エステル塩、脂肪酸とジエタノールアルキルアミンとの四級化エステル塩、および脂肪酸と 1, 2 - ジヒドロキシプロピルジアルキルアミンとの四級化エステル塩である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

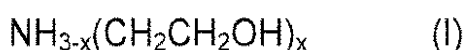
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

過酸化水素および / または無機化合物もしくは有機化合物への過酸化水素の固体付加生成物から選択される少なくとも 1 種の酸化剤、

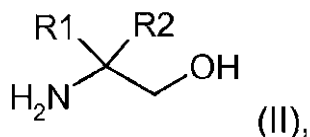
式 (I) :

【化 1】



[式中、 x は 1、2 または 3 の数の 1 つを表す]
 で示される少なくとも 1 種のアルカノールアミン、
 および式 (II) :

【化 2】



[式中、 $\text{R}1$ および $\text{R}2$ は、それぞれ互いに独立に、水素、 $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アルキル基または $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ ヒドロキシアルキル基を表すか、または、 $\text{R}1$ および $\text{R}2$ は、アルカノールアミンの炭素原子と共に、4 ~ 8 個の環原子を有し、1 ~ 2 個のヘテロ原子を任意に有する環を形成し、但し、 $\text{R}1$ および $\text{R}2$ は同時に水素を表さない]

で示される少なくとも 1 種のアルカノールアミン

を化粧用担体中に含む、ケラチン性繊維、特に人毛を、酸化的染色および / または明色化するための剤であって、該剤は無アンモニアである剤。

【請求項 2】

式 (I) で示されるアルカノールアミンとして、モノエタノールアミンを含む、請求項 1 に記載の剤。

【請求項 3】

式 (II) で示されるアルカノールアミンとして、 $\text{R}1$ および / または $\text{R}2$ が $\text{C}_1 \sim \text{C}_6$ アルキル基を表すか、または $\text{R}1$ および $\text{R}2$ がアルカノールアミンの炭素原子と共にシクロペンチル基、シクロヘキシル基またはテトラヒドロピラン基を表す式 (II) で示される少なくとも 1 種の化合物を含む、請求項 1 または 2 に記載の剤。

【請求項 4】

式 (I) で示されるアルカノールアミンとしてモノエタノールアミン ($x=1$)、および式 (II) で示されるアルカノールアミンとして、 $\text{R}1$ および $\text{R}2$ がそれぞれメチル基を表す式 (II) で示される少なくとも 1 種の化合物を含む、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の剤。

【請求項 5】

式 (I) で示されるアルカノールアミンおよび式 (II) で示されるアルカノールアミンを、使用できる状態の剤の全重量に基づいて、0.5 ~ 25 重量%、好ましくは 1 ~ 20 重量%、特に好ましくは 4 ~ 12 重量%の合計量で含み、ここで、式 (I) で示されるアルカノールアミンと式 (II) で示されるアルカノールアミンとの重量比が 1 : 10 ~ 10 : 1、好ましくは 1 : 2 ~ 2 : 1 である、請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の剤。

【請求項 6】

少なくとも 1 種の酸化染料前駆物質および / または直接染料を色調変化成分として含む、請求項 1 ~ 5 のいずれかに記載の剤。

【請求項 7】

式 $\text{RCO}_2\text{R}'$ [式中、 R は、 $\text{C}_7 \sim \text{C}_{21}$ アルキル基または $\text{C}_7 \sim \text{C}_{21}$ アルケニル基を表し、 R' は、 $\text{C}_8 \sim \text{C}_{22}$ アルキル基または $\text{C}_8 \sim \text{C}_{22}$ アルケニル基を表す] で示される脂肪酸アルキルエステルから選択される少なくとも 1 種の脂肪成分を追加的に含む、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の剤。

【請求項 8】

ケラチン性繊維、特に人毛を、酸化明色化または染色する際の明色化力を向上させるための、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の剤の化粧的、非治療的使用。

【請求項 9】

ケラチン性繊維、特に人毛を、酸化染色する際の、白髪被覆を向上させるための、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載の剤の化粧的、非治療的使用。

【請求項 10】

化粧用担体中に式 (I) で示される少なくとも 1 種のアルカノールアミンおよび式 (II)

）で示される少なくとも１種のアルカノールアミンを含む調製物（Ａ）を含有する少なくとも１つの第一容器（Ｃ１）、および

化粧用担体中に少なくとも１種の酸化剤を含む顕色剤調製物（Ｂ）を含有する少なくとも１つの第二容器（Ｃ２）を含有し、該調製物（Ａ）および該顕色剤調製物（Ｂ）がいずれも無アンモニアである部品のキット。

【請求項１１】

調製物（Ａ）が少なくとも１種の酸化染料前駆物質および／または少なくとも１種の直接染料から選択される少なくとも１つの発色成分を含む、請求項１０に記載の部品のキット。